

第 6 回検討部会における意見等への対応について

No.	質疑内容	対応	資料
1	<p>【熱中症による救急搬送者数について】</p> <p>・発生場所の道路・交通施設においては、屋内も含まれている。千代田区では屋内より屋外で熱中症により救急搬送人員が多くなっているという記載内容にも関わるので、屋内・屋外別の集計データがあるとよい。</p>	<p>・東京消防庁より屋内・屋外別のデータを収集し、まとめました。</p>	参考資料 1
2	<p>【本計画の目的について】</p> <p>・本計画において、何を目的において実行していくのかを明確にし、区民の皆様などにアピールするとよいのではないか。また、ヒートアイランド現象が生じた場合、人に対してどのような悪影響があるのかを明確にし、インパクトのある発信をするとよいのではないか。</p>	<p>・本計画の目的に千代田区が実施していく具体的な内容を記載し、目的を明確にしました。また、人への悪影響の 1 つである熱中症についても発症する理由を記載しました。</p>	資料 2 1.1.3 2.1
3	<p>【暑さ指数による表現について】</p> <p>・現在、熱中症による救急搬送者数と最高気温の関係などをグラフ化しているが、気温だけでなく暑さ指数による表現もあるといいのではないか。</p>	<p>・熱中症による救急搬送者数と暑さ指数の関係についてのグラフを記載しました。</p>	資料 2 1.1.3
4	<p>【気候変動改正法について】</p> <p>・令和 5 年度の気候変動改正法の内容を、国の施策の記載箇所に追記してほしい。</p>	<p>・令和 5 年度に改正された気候変動適応法の内容を国の取組みに記載しました。</p>	資料 2 1.2.1
5	<p>【令和 5 年度の熱中症による救急搬送者数のデータによる更新について】</p> <p>・令和 3 年度が比較的気温の低い特異な年であったことから、令和 4 年度のデータに加え、可能であれば令和 5 年度の熱中症による救急搬送者数のデータによる記載もあるといいのではないか。</p>	<p>・東京消防庁に確認したところ、令和 5 年度の救急搬送者数のデータについては、令和 6 年 4 月頃に公表される予定であるとの回答がありましたので、記載できませんでした。</p>	—

6	<p>【気候変動に伴う異常気象に対する適応策の検討について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化・気候変動に伴う異常気象が頻発している中で、このような異常気象についても、適応策として対策計画に位置付けられないか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の目的に異常気象の文章を記載し、適応策は異常気象に対しての対策も含めた位置付けとしました。 	<p>資料2 2.1</p>
7	<p>【東京都環境基本計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月に改定した東京都環境基本計画の内容を東京都の取組みに追記してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月に改定した東京都環境基本計画の内容を東京都の取組みに記載しました。 	<p>資料2 1.2.2</p>
8	<p>【「地域別」の「地域の現状」図の表記について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状図は、地表面温度の高い地域と低い地域を区画で区分している。これでは、暑い地域と涼しい地域が一元的にとらえられてしまい、誤解を与える可能性があるため、昨年度の成果の地表面温度の分布図の方がいいのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状の図は、熱分布画像に変更しました。 	<p>資料2 3.4.2 ～3.4.9</p>
9	<p>【ソフト対策の記載について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の皆様が実施する熱中症対策などのソフト面の対策がほとんど記載されていないので、3章以降での記載を検討するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章のヒートアイランド対策への取組みに区民の取組みを追加しました。また、施策別に区民の取組む対策を記載しました。 	<p>資料2 1.2.5 3.1</p>
10	<p>【街路樹などのイメージについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に大きな街路樹を活用するイメージが記載されているが、実際には自動車の走行空間などにより樹形の制約があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用途別の道路のイメージ図について、街路樹の樹形を実際の状況を踏まえ修正しました。 	<p>資料2 3.2.3</p>
11	<p>【ウォークブルなまちづくりの反映について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の敷地・行政の道路・公園などを総合的にデザインしてヒートアイランド対策を行うウォークブルなまちづくりについての記載も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策別のその他に、マネジメントを追加し、ウォークブルに関する内容を記載しました。 	<p>資料2 3.1.4</p>

12	<p>【ネットワークの結節点などに関する記載について】</p> <p>・常盤橋や内幸町などの開発計画では、ネットワークの結節点などが検討されており、そういった内容について記載してもいいと思います。</p>	<p>・今後の開発計画が予定されている地域については、対策に記載しました。</p>	<p>資料2 3.4.3 3.4.5 3.4.6 3.4.8</p>
13	<p>【対策のプライオリティについて】</p> <p>・プライオリティが何かっていうことをもう少し考えてもいいと思いました。同じ対策でも、それを最大限活用できる場所と、そうでない場所がある。ヒートアイランド対策としてプライオリティが高いものについては、そのことも記載するということを検討するとよいのではないか。</p>	<p>・ヒートアイランド対策としてのプライオリティについては、対策を実施する場所の状況などを踏まえながら適切に実施していきます。</p>	<p>—</p>
14	<p>【安全安心メールについて】</p> <p>安全安心メールの内容がわかるように補足説明が必要である。</p>	<p>・用語解説に記載しました。</p>	<p>資料2 資料編7</p>
15	<p>【区民への情報発信について】</p> <p>住民が関わるヒートアイランド対策が何かを理解しやすい情報発信が必要である。ヒートアイランド現象の影響の危険性が、伝わるような表現も必要である。国は、2030年までに熱中症による死者を半減させるとの目標設定をしている。危機意識を国と共有しながら施策を実施していくということが伝わる記載のあり方を検討した方がいいと思います。</p>	<p>・区民が実施する対策については、「施策別」に記載しました。また、ヒートアイランド現象の危険性については、熱中症が発症する理由を記載しました。そして、国と協力しながら施策を実施していくことは、計画の推進体制に記載しています。</p>	<p>資料2 1.1.3 3.1 4.1</p>
16	<p>【推進体制について】</p> <p>第4章の推進体制では、関係部署が意欲的に連携し、ヒートアイランド対策のために活動しているという事例を示すと他の自治体の参考にもなり、よいのではないか。</p>	<p>・関係部署が実施しているヒートアイランド対策については、今後も区のHPや区報などを活用して積極的に情報発信していきます。</p>	<p>—</p>

17	<p>【住宅での対策について】</p> <p>千代田区では、夜間人口が増加しているのが特徴であることから、住宅の中での対策の取組みとしてソフト対策である、ひと涼みスポットや高齢者宅の個別の訪問事業などを記載するとよい。</p>	<p>・「施策別」の熱中症対策として「ひと涼みスポットの設置」、「高齢者への熱中症予防訪問」を記載しました。</p>	<p>資料2 3.1.4</p>
18	<p>【緑の都市インフラについて】</p> <p>千代田区での熱中症発生の特徴として、路上や街中で発生している。効果的な対策として、緑陰の創出が重要となるが、まちづくり政策の中で、緑を都市インフラとして位置付けていくということを明記したほうがよい。大丸有などの先進事例などを情報発信することも必要である。</p>	<p>・緑化については、個別の建替えや道路公園の改修だけでなく、まちづくりにおいても都市計画制度や大規模開発などを活用しながら緑化を推進していくことを記載しています。また、先進事例などについての情報発信も検討していきます。</p>	<p>資料2 3.1 ～3.4</p>
19	<p>【熱中症対策について】</p> <p>現在の熱中症対策は、自助公助が中心となっている。公共としては、ハード面のヒートアイランド対策を実施することで、熱中症予防へ貢献できるが、十分ではないと思われる。千代田区ができる公助としての熱中症対策には、どのようなものがあるのかを明確にしていくことが必要である。</p>	<p>・ハード面の対策については、今後も建物の建替えや道路公園などの改修をしながら地道に取り組んでいきます。また、熱中症対策の内容については、施策別に記載しました。</p>	<p>資料2 3.1 3.2</p>
20	<p>【対策の名称について】</p> <p>前計画の対策項目の名称と本計画の第3章以降の対策の名称が異なっていて、わかりづらいのではないかと。</p>	<p>・施策別の名称については、前計画の名称と合うように修正しました。また、前計画の取組みと本計画における取組みの位置づけがわかる表を追加しました。</p>	<p>資料2 3.1 資料編3</p>
21	<p>【エリアマネジメントについて】</p> <p>エリアマネジメントの記述があるが、その後の維持管理が大切となるため、それを追記した方がよい。</p>	<p>・まちづくりにおけるヒートアイランド対策に維持管理を記載しました。</p>	<p>資料2 3.3.1</p>
22	<p>【PDCA サイクルについて】</p> <p>PDCA サイクルはどれくらいの期間を想定しているのか。2030年までの間にチェックをするということなのか。</p>	<p>・本計画の進行管理については、毎年開催される「地球温暖化対策推進懇談会」に報告し、改善提案を受けながら進めていく予定ですので、その内容に修正しました。</p>	<p>資料2 4.2</p>